

事業名		しま・ひと・しごと未来づくり事業								
担当部署名		企画部 企画政策課		うるま市 総合戦略 該当箇所		基本目標2 本市への新しい人の流れをつくる 基本施策2-1 移住・定住の推進 2-1-1 移住情報の発信と相談				
事業実施(予定)年度		令和元年度～令和3年度								
事業内容		<p>人口減少が進み、将来的なコミュニティ機能の維持が危ぶまれる島しょ地域(平安座島・宮城島・伊計島・浜比嘉島・津堅島)において、持続的な地域づくりに取り組むための中間支援組織を設立し、その活動拠点を整備し、相談窓口の運営による移住促進や、空き家活用の促進を図る。また、働く場の少ない島しょ地域において、ローカルベンチャースクールを実施することにより、移住促進と同時に地域資源の活用や空き家の増加といった地域課題の解決に資する起業・創業につなげ、新たな雇用を創出し、島ビジョン(地域住民が描く島の将来像)の達成や島しょ地域の活性化を図ることを目的とする。</p> <p>【令和3年度の取組内容】</p> <p>①ローカルベンチャースクール(島しょ地域での伴走型起業支援)</p> <p>②お試し移住(一定期間地域へ滞在し生活を体験する取り組み)</p> <p>③「うるま市島しょ地域交流施設」改修工事(移住相談窓口/中間支援組織活動拠点)</p>								
実施方法		<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )								
予算額・執行額 【単位:千円】	予算の状況	(a)当初予算額	R1年度	R2年度	R3年度	予算の状況の説明 <p>発注者 うるま市</p> <p>委託料 10,199千円</p> <p>受託者 一般社団法人 プロモーション うるま</p> <p>工事請負費 23,522千円</p> <p>請負者 工事関係業者 2社</p> <p>・委託事業者は公募型プロポーザル方式により提案内容や実績、執行体制等を勘案したうえで選定を行った。*工事関係は入札による。 ・工事関係経費について、補正による対応があったため、(b)において増額となっている。</p>				
		(b)予算現額	16,000	27,748	20,000					
		(c)増減額(b-a)	16,294	14,397	36,168					
		(d)繰越額	294	▲13,351	16,168					
		A.計(b+d)	0	0	0					
	執行状況	B.執行済額	16,294	14,397	36,168					
		うち交付金充当額	15,131	14,105	33,720					
		次年度繰越額	7,565	7,052	16,860					
		執行率(%) (B/A)	0	0	0					
			92.9%	98.0%	93.2%					
重要業績評価指標(KPI)及び進捗状況	指標名		指標値				実績値			
			R1	R2	R3	累計	R1	R2	R3	累計
	1. 事業を通した島しょ地域への移住者数(人)		10	10	10	30	22	8	7	37
	2. 移住相談窓口での相談者数(人)		50	50	50	150	62	63	38	163
	3. 事業を通した島しょ地域での新規起業及び起業見込数(件)		0	0	2	2	0	2	4	6
4. ローカルベンチャースクールの参加者数(人)		10	10	10	30	0	14	9	23	
進捗状況		<p>1. 事業を通した島しょ地域への移住者数については、移住コーディネーターの相談窓口を通して移住した人の数値となっている。目標数値を下回ったが、概ね目標値に近い数値となった。</p> <p>2. 移住相談窓口での相談者数については、目標値を12人下回る結果となった(24%の減)。</p> <p>3. 事業を通した島しょ地域での新規起業及び起業見込数については、「うるまワタクシプロジェクト(島しょ地域人材対象)」を実施した結果、全参加者7組(9人)の具体的な取り組みに繋がった。</p> <p>4. ローカルベンチャースクールの参加者数について、9組の応募があり、審査の結果7組(9人)の参加で中断者は出ずに、最後まで取り組めた。</p>								
R3年度事業効果		本事業は地方創生に相当程度に効果があった。								
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)				改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)					
	<p>1. 移住相談については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、相談件数が減少した。</p> <p>2. お試し移住については、新型コロナウイルス感染症の影響により、県外からの受入ができない状況であったため、津堅島の状況を紹介するオンラインセミナーへ切り替えた(申込10件/参加者5組6名)。</p> <p>3. ローカルベンチャースクールについては、各プログラム実施のアナウンス期間が短く、受講生からは前もってのアナウンスの要望が多かった。</p> <p>4. ローカルベンチャースクール実施にあたっては、「コンセプト作り」を重点的に行うことや、集合研修、フィールドワーク、テストマーケティングイベントを実施し、中断者を出さず、事業の実現性を高めるよう工夫した。</p> <p>5. 施設整備については、利用されていた施設であるため、外部の修繕程度の改修を実施した。</p> <p>6. 移住を促進するためには、「活用できる空き家の掘り起こし」がボトルネックとなっている。</p>				<p>1. HPの内容改善やSNSの利用等、プロモーション活動も充実する必要がある。</p> <p>2. お試し移住については、ニーズがあるため新型コロナウイルスの影響を考慮しつつ長期間の開催を検討する必要がある。実施にあたっては、単独事業での検討も必要。</p> <p>3. 取組に関するスケジュール管理及び開催期間の改善を検討する必要がある。</p> <p>4. 起業家が成功するためには、交流し人的ネットワークを広げることも大切であるため、今回実施した内容を補強する点で、交流を促す取組みが求められる。</p> <p>5. 施設を有効活用するためには、施設の周知活動や交流を促すソフト面での取り組みも重要であるため、様々なツールを使った周知やイベント等を実施することが求められる。</p> <p>6. 集落支援員を導入し、空き家の掘り起こしを行うことや「空き家バンク」の導入また、空き家改修補助制度の設立を検討する必要がある。</p>					
事業総合評価(3年間の総括)										
これまでの取り組みにより、成果が十分に上がっている		<p>・3年間の実績値をみると、ローカルベンチャースクールの参加者数のみ目標を下回っているが他の項目はすべてにおいて目標値を上回っている。令和元年度はローカルベンチャースクールの制度設計であったことから、その点を考慮すると実績値として成果を上げていると評価した。</p> <p>・島しょ地域全体の人口動態について、住民基本台帳上は69名(島しょ地域人口の約2.5%)の社会増となっていることから、本取り組みの周知効果が一定程度寄与していると考えられる。*田園回帰1%戦略の約2倍</p> <p>・ローカルベンチャースクールについては、1期生が2組(軒)島しょ地域内に食堂を開設することで、地域の人も集い、賑わいが創出されている。また、1期生と2期生の連携が生まれるなど、地域内でチャレンジする意識の醸成が進んでいる。</p> <p>・拠点整備については、活動する拠点ができたことで、移住相談の体制強化され更なる移住促進が期待できる。</p>								
今後の取り組み方針										
本事業の3年間で培われた人的ネットワークやノウハウ、拠点施設の資産を活かし、持続的な地域づくりに取り組むため、事業を改善しつつ、継続的に取り組む。具体的には、集落支援員制度を活用し、移住相談業務を組織的に行うことや、地域の自治会と連携体制を構築する。										
外部有識者による評価										
総合評価	A これまでの取り組みにより、成果が十分に上がっている		<p>・移住者数は目標値を上回っていることや、本事業で支援した起業家等のネットワーク形成など、地域の好循環が生まれていることから高評価である。</p> <p>【今後に向けて】</p> <p>・定着率の把握にも努める必要がある</p> <p>・空き家の活用に向けて、改修費用補助メニューの創設や自治会からのサポート体制が求められる</p>							